

# Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

## 目 次

〈理事会報告 (2024 年 11 月 10 日)〉

■ 審議事項

- I 第 35 回大会 (筑波大学) の大会報告及び収支決算報告
- II 第 36 回大会 (花園大学) について
- III 各委員会の活動報告
- IV 会則変更 (代表理事の多選規定) および団体会員について

■ 報告事項

- V 事務局報告

〈「第 4 回若手育成セミナー」オンライン開催(公開)のお知らせ〉

〈「第 15 回研究集会」オンライン開催 (公開)のお知らせ〉

〈事務局からのお知らせ〉

---

---

## 理事会報告（2024年11月10日）

---

---

出席者：石井理事、石田理事、磯田理事、上地理事、上野理事、奥村理事、木原理事、黒田理事、子安理事、澤田理事、柴田理事、高橋理事、田村理事、根津理事、樋口理事、松下代表理事、的場理事、村川理事、森理事、吉田理事、香川大学附属高松小学校、木村裕会員（花園大学）、藤井浩史会員（花園大学）（計23名）

事務局：竹川事務局長・理事、富士原理事、次橋幹事（計3名）

定例理事会が、2024年11月10日（日）9時30分から11時50分まで、Zoomを用いたウェブ会議形式で開催された。26名（うち理事23名、事務局3名※2名は理事をかねる、2025年度大会開催校より2名）の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、開会の挨拶が述べられた。

### ■ 審議事項

#### I 総会議事

第35回大会（筑波大学）の大会報告及び収支決算報告が行われた。

樋口直宏大会実行委員長より、まず学会会員・理事に対して大会運営の協力への謝辞が述べられた。続いて、資料に基づき、大会報告が読み上げられ、承認された。収支決算報告では、昨年度の大阪教育大学大会よりガリレオ社へ大会業務委託を行っており、今大会においても1,083,919円の委託費が発生しているものの、学会事務局より1,000,000円の補助費を得ており、最終的に240,326円の黒字であったことが報告された。これに対し、松下代表理事より大会実行委員会へ謝辞が述べられた。

#### II 第36回大会（花園大学）について

磯田理事より、資料に基づき準備状況の報告が行われた。大阪・関西万博との兼ね合いで会員の宿泊先の確保の困難が見込まれるが、移動しやすい交通経路と予約状況等をふまえた宿泊候補地等の適切な提案を行いたいということ、当日は託児室の設置と2名の保育士の配置を予定しているとの説明があった。また、第2日目の開始時間や総会前後の時間帯等、前回理事会での提案からの変更点の説明が行われ、承認された。

次に、木村副事務局長より、シンポジウム（テーマ「ESD（持続可能な開発のための教育）を問い直すー学校教育に対する可能性と検討課題」）の趣旨と形式の説明が行われた。

最後に、藤井事務局長より、参加申し込み期間を、大会開催期間同様に例年よりもおよそ2週間早めて、3月3日～5月30日としていることが報告された。

### III 各委員会の活動報告

#### 1. 学会賞委員会

木原副委員長より、資料に基づいて、優秀発表賞の選考過程と候補者についての説明が行われ、承認された。続いて、磯田委員長より、資料に基づき、研究奨励賞の選考状況の説明が行われた。[理事会開催日は] 第一段投票受付中であり、あらためて投票への協力が呼びかけられた。

また、学会賞の選考における利益相反に関して意見が寄せられていることが紹介され、その取り扱いについての議論が行われた。松下代表理事より、日本教育学会では第1段階の候補者の選出において利益相反に関わりそうな場合は自己申告によって担当しないようにし、第2段階では全員で審査にあたるという方法が採られていることが紹介された。木原副委員長より、①第一投票とその次の審査委員会による審査は区別する必要がある、②審査委員会のメンバー決定においては科研費審査の利益相反の条件などを参考に利益相反がないようにするものの、第一段投票においては条件を緩やかにすることも考えられる、との意見が出された。本件については、委員会として継続的に審議し、次回理事会であらためて提案を行うこととなった。なお、規程の変更を伴う場合は2025年6月の総会で審議することが確認された。

#### 2. 紀要編集委員会

澤田委員長より、資料に基づいて、査読体制と今後の活動見通しについての報告が行われた。この中で、多忙を理由に査読を引き受けられなかった理事は、次年度については多めに引き受けるなどして査読業務に偏りが出ないように協力してもらいたいこと、また、論文内容の専門性を厳密に考慮した結果として査読を担当できないと辞退する判断をされる方もいるが、カリキュラム研究者として専門性との適合については広く考えて担当いただきたい、との依頼があった。

次に、松下代表理事より 現状では非会員で課題研究・シンポジウムに登壇した方に『カリキュラム研究』が送付されていないことについて意見が出され、検討の結果、今年度から、非会員の『カリキュラム研究』掲載者については紀要編集委員長の方でとりまとめ、ガリレオ社に送付の依頼をすることが承認された。

最後に、森副委員長より、論文以外のその他原稿については、発表者に直接ではなくコーディネーターまたは司会者にガリレオ社から依頼があることが補足として述べられた。

#### 3. 国際交流委員会

吉田副委員長より、資料に基づいて、2024年度学会誌「海外カリキュラム研究情報」執筆依頼の状況および2025年度の大会課題研究についての報告が行われた。前者については、英国のSarah Seleznyov氏に依頼・了承済み、後者については「プラグマティズムの再評価—アメリカ・ドイツ等の教育思想とその実践—(2025)」を前提としつつ、今後も継続審議とすることが説明された。また、新プロジェクト(国内外の関係学会との連携・共同研究)についての進捗の報告も行われた。

#### 4. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づいて、研究集会および第36回大会の課題研究についての予定の説明が行われた。研究集会については、ハイブリッド形式、かなわなければオンラインでの実施が望ましいという方向性が確認された。課題研究については現在委員会で検討中の案と視点が提示された。

#### 5. 広報・若手育成委員会

村川委員より、資料に基づいて、秋のセミナー（2024年11月16日・オンライン）、若手育成セミナー（2025年2月22日・オンライン）、第36回大会の課題研究についての報告が行われた。これに関連して、若手育成セミナーの登壇者4名のうち2名が、研究委員会で依頼済みの研究集会の登壇者と重なることについて、開催時期も近く登壇者の負担もあるためご本人の意志次第ではあるが、内容としては異なっているため、理事会としては問題としないことが確認された（※ただ、その後、若手育成セミナーの登壇者の方が変更されたため、重複はなくなった）。

松下代表理事より、課題研究として今後のシリーズ化が提案された「〇〇と教育課程」について、射程を広く捉えるとともに学会の名称をふまえて「〇〇とカリキュラム」としてはどうかという提案があり、広報・若手育成委員会内で検討することとなった。

#### IV 会則変更（代表理事の多選規定）および団体会員について

竹川事務局長より、新たに第11条2項として、「代表理事は2期を越えて引き続き就任することはできない。」という項目を追加することの提案があり、会則の変更案が示された。松下代表理事より意見があり、期間を空けて再任することを認めないことを明確に示すためにも、「代表理事の任期は最長で2期までとする。」と表現を改め、次回理事会に再度提案することになった。

竹川事務局長より、団体会員資格について、これまで明確な規定はなかったが、大会参加費等で「団体会員」が適用されるのは5名まで、1団体につき自由研究発表は1つまで（さらに自主企画セッションを1つまで加えることは可）とすることが提案され、承認された。本件については、今後は学会ウェブサイトの入会案内や大会要項に明記することとした。

### ■ 報告事項

#### V 事務局報告

竹川事務局長より、資料に基づいて、会員現況報告、会費納入率、入退会の状況、寄贈図書等一覧、会計途中報告、第37回大会（2026年度）の大会校について報告が行われた。

会費に関連することとして、会費未納による強制退会者の新規入会（再入会）の例があるが、以前の理事会で議論した通り、全未納期間分の会費の支払いにより再入会を承認したことが報告された。富士原理事より、学会に多大な貢献をした年長の会員について学会費を徴

収しない（名誉会員とする）例が他学会には見られる場合があるが、本学会でも検討してはどうかとの提案があった。

第 37 回大会（2026 年度）については、松下代表理事より、大会校を広島大学が引き受けてくださったことが紹介された。続いて、吉田理事より広島大学を代表して大会校受諾の経緯の説明と挨拶が行われた。

## Ⅶ その他

とくになし。

# 日本カリキュラム学会 広報・若手育成委員会

## 第4回若手育成セミナー

### 外国研究をどのように論文にするか

#### 趣旨:

広報・若手育成委員会は、2025年2月22日(土)の10:00~12:30(オンライン)で、外国研究の論文のあり方について検討します。カリキュラム研究では、過去・現在の国外のカリキュラムに関わる研究や政策の動向、制度や実態に関する研究が数多く行われてきました。こうした「外国研究」論文は、日本のカリキュラム研究の相対化や新たな知見を得るために重要な位置づけを果たしてきています。

その一方で、カリキュラム研究において「外国研究」論文を執筆する上では多様な課題があります。第1は、そもそも何を対象とするべきなのかという研究対象の選定です。第2は、基礎となる資料やデータとは何か、どのように集めるのかという調査や計画に関する問題です。第3は、とった資料を誰がどのように整理・分析し、考察するのかです。もちろん、どのような研究論文でもこうした問題はあり得ますが、とりわけ外国研究の場合、現地調査の有無や、地域的な差異をどれくらい意識すべきなのか、言語的な問題、分析の妥当性の検証をどのように行うかなど、進めていくうえで悩むことも多くあるかと思えます。

この集会では、現在、外国研究を行っている／行った方々を登壇者として迎え、これから研究を始める方・行いながらも悩んでいる方に対して話題提供をいただき、それを踏まえながら参加者同士で議論を深めていく主旨となっています。前半は、前紀要編集委員から、外国研究のカリキュラム研究上の意義に関する説明をいただき、その上で、3名の会員から、ご自身の執筆した論文を事例として説明していただきます。とりわけ、研究の焦点や対象・調査方法やまとめ方についてお話しいたします。後半は、「カリキュラム研究論文で何が課題となるか」といった点について、ブレイクアウト・グループに分かれて検討し、意見を交換し、知見を深めていきます。

本集会を通して、今後のカリキュラム研究を作る若手研究者のみなさんと共に、カリキュラム研究としての外国研究論文のあり方や方向性などを検討する時間にしたいと思います。お誘いあわせのうえ、ふるってご参加下さい。

#### 日時:

2025年2月22日(土) 10:00~12:00 ※9:45 ごろから入室可。

#### 形態:

Zoom によるオンライン配信

## プログラム:

0. オープニング: 10分 (趣旨説明など)

1. 話題提供: 15分

「カリキュラム研究における外国研究の意義」(京都女子大学 森久佳)

2. 話題提供(2): 70分 (※間に10分の休憩を挟む)

「外国研究論文をどのように執筆したか(1)」(神戸大学 石田智敬)

「外国研究論文をどのように執筆したか(2)」(広島大学 安藤和久)

「外国研究論文をどのように執筆したか(3)」(山口大学 山下大喜)

3. 論点整理&グループでの対話: 15分

4. 話題提供者とフロアとのディスカッション: 30分

5. クロージング: 10分

## コーディネーター・司会:

西岡加名恵(京都大学)、川口広美(広島大学)

**参加費:** 無料(会員以外の方でもご参加いただけます)

## 参加申込:

参加希望者は、下記の URL から参加申込を行ってください。

<https://forms.gle/tk36Df6pgfdI ZaNn7>

2月19日(水)を参加申込締切とします。

※上記で参加申込されると、Zoom ミーティングの URL 等の情報が提示・メール送信されますので、当日まで保存してください。

## 問い合わせ先:

西岡加名恵(nishioka.kanae.2v@kyoto-u.ac.jp)

---

---

## 日本カリキュラム学会 第15回 研究集会のお知らせ

---

---

代表理事: 松下 佳代

研究委員会委員長: 上地 完治

テーマ

### ドイツ教育学におけるカリキュラム研究

—日本カリキュラム学会研究奨励賞受賞者からの報告—

趣旨

本研究集会では、2023年度に本学会の研究奨励賞を受賞された2名の若手研究者にその研究成果を報告してもらい、研究動向ならびに研究の方向性について理解を深めることを目的としている。2名の会員は、どちらもドイツを研究フィールドとしており、期せずしてテーマはドイツ教育学におけるカリキュラム研究となった。

田中怜会員は、『学校と生活を接続する—ドイツの改革教育的な授業の理論と実践』（春風社、2022年）が研究奨励賞の対象となるとともに、同年の第34回大会自由研究発表「『鍵的問題』はなにがどう批判されたのか—一般陶冶としての問題志向カリキュラムの可能性と限界—」に対する優秀発表賞も合わせて受賞された。田中会員には、両賞をふまえて「《あいだ》の教授学——学校と生活の接続を問う」と題し、「改革教育」「鍵的問題」「教育化」といったドイツ教育学に固有の諸概念を基盤としたカリキュラム研究の展望について報告していただく。

宮本勇一会員は、『フンボルトの陶冶理論と教育改革—学問中心カリキュラムの再考』（春風社、2023年）が研究奨励賞の対象となった。宮本会員には、同書をふまえて「時代錯誤の思考様式?—ドイツ教授（育）学の時代的限界を現代カリキュラム改革の批判軸に据える—」と題し、ドイツ教育学の思考様式の一つを取り上げて、それが今日の教育学・教育改革の中で迎えている限界を捉え、同時にこうした限界（時代錯誤性）を現状打破の一步に据える試みを報告していただく。

当日は、両会員からの発表を中心に、それぞれの報告に対して質疑応答の時間を設ける。シンポジウム形式はとらないが、最後に希望者によるオンライン交流会を行って、参加者から両会員に対して直接質問したり、参加者どうして自由に交流したりする場を設けたい。

日時: 2025年3月1日(土) 14:00~17:00

(※16:30~17:00はオンラインで交流会を実施します)

参加方法: オンライン (Zoom ミーティング又はウェビナー)

※13:40頃から入室可。

報告者:

○田中 怜 会員(筑波大学)

○宮本 勇一 会員(岡山大学)

司会:

小柳和喜雄(関西大学)、樋口直宏(筑波大学)

参加費 無料(学会員でない方にもご参加いただけます)

#### 参加申込について

参加希望者は学会ホームページから、2025年2月24日(月)までにお申し込みをお願いします。申込者には登録メールアドレス宛に自動的に接続情報が送付されます。届かない場合は、「迷惑メール」のフォルダに入っていないかご確認ください。接続情報が記載されたメールを紛失した場合は、再度お申し込みください。

---

---

## 事務局からのお知らせ

---

---

### 1. 会員現況概要 (2024年10月24日時点)

■会員総数 705 名 (一般会員 616 名、学生会員 83 名、団体会員 6 名)

※連絡先不明者 5 名、未納退会希望者・会員一時資格停止者 25 名を含む。

(2023 年度 706 名、2022 年度 : 701 名、2021 年度 : 712 名)

■会費納入率 (2024年10月24日時点)

2024 年度 : 完納 563 名 未納 142 名 計 705 名 79.8% (切り捨て)

※連絡先不明者 5 名、未納退会希望者・会員一時資格停止者 25 名を含む。

(2023 年度 : 89.0%、2022 年度 : 92.1%、2021 年度 : 96.7%)

■新規入会者 (2024年6月15日~2024年10月24日) 8名

入会年月日	氏名	所属	会員種別	推薦者
2024/6/25	大橋 隆広	浜松学院大学	正会員	再入会
2024/7/11	大西 公恵	和光大学	正会員	菊地 愛美
2024/9/1	深井 もも	東京学芸大学大学院	学生会員	橋本 美保
2024/9/5	北野 原理	国立大学法人 静岡大学	学生会員	山元 薫
2024/9/23	木下 龍	千葉大学	正会員	橋本 美保
2024/9/24	史 鵬宇	岡山大学大学院	学生会員	桑原 敏典
2024/9/26	桑川 薫樹	京都大学大学院	学生会員	奥村 好美
2024/10/16	須田 樹	北海学園	正会員	堂徳 将人

■退会者 (2024年6月15日~2024年10月24日) 0名

### 2. 寄贈図書一覧 (2024年6月25日~2024年10月31日到着分)

著者名	タイトル	出版社	発行日	受領日
笹野恵理子・学校音楽文化研究会編著	学校音楽文化論:人・モノ・制度の諸相からコンテキストを探るー	東信堂	2024/2/28	2024/3/16
東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所編	パネル調査にみる子どもの成長: 学びの変化・コロナ禍の影響	勁草書房	2024/2/20	2024/3/20
Tetsuo Kuramoto	School-Based Curriculum Management: Teacher Education and Lesson Study Perspective	ふくろう出版	2024/2/20	2024/3/29

田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著	子どもと教師のウェルビーイングを実現するカリキュラム・マネジメント	ぎょうせい	2024/4/5	2024/4/8
石井英真	教育「変革」の時代の羅針盤:「教育 DX×個別最適な学び」の光と影	教育出版	2024/3/19	2424/4/2
ベス・C・ルービン 著、池野範男・川口 広美・福井駿 監訳	メイキング・シティズン:多様性を志向した市民的学習への変革	明石書店	2024/3/31	2024/4/8
北山夕華・橋崎頼子編	多文化社会の学校と教師教育:ノルウェーと日本の国際比較研究から	大阪大学出版会	2024/3/31	2024/4/24
豊田ひさき	東井義雄 授業実践史	風媒社	2024/3/14	2024/5/9
樋口とみ子	リテラシー教育はどうあるべきか:現代アメリカにおける概念の相克から読み解く	ミネルヴァ書房	2024/8/1	2024/6/24
細尾萌子・小田初美・副島和美・倉本 孝子編著	看護・助産師教育に活かすパフォーマンス評価ワークブック:導入のための初めの一步	創元社	2024/6/10	2024/7/1
渡部竜也	教室で論争問題を立憲主義的に議論しよう:ハーバード法理学アプローチ	東信堂	2024/6/20	2024/7/22
田中耕治 西岡加名恵編	内申書を問う:教育評価研究からみた内申書問題	有斐閣	2024/6/25	2024/7/24
山下大喜	中国近代における「国語科」の創成:胡適の思想的模索	九州大学出版会	2024/9/25	2024/9/4
森直人・澤田稔・金子良事編著	「多様な教育機会」をつむぐ:ジレンマとともにある可能性	明石書店	2024/9/25	2024/9/24
森直人・澤田稔・金子良事編著	「多様な教育機会」をから問う:ジレンマを解きほぐすために	明石書店	2024/9/25	2024/9/24
松下佳代編著	ミネルヴァ大学を解剖する	東信堂	2024/9/10	2024/10/1
橋本美保編著	大正新教育の実際家	風間書房	2024/10/10	2024/10/1

### 3. 会計途中報告

日本カリキュラム学会

第35回大会年度（2024年度）中間報告書

（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### 収入の部

項目	予算額（円）	実績（円）
学会年会費	5,000,000	4,423,000
入会金	80,000	86,000
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	27,276
第35回大会収入	1,000,000	1,607,500
寄付	0	0
前年度繰越金	11,553,853	11,553,853
合計	17,663,853	17,697,629

#### 支出の部

項目	予算額（円）	実績（円）
第35回大会支出	2,000,000	2,662,174
第33号紀要刊行費（含む発送費、J-STAGE掲載経費）	700,000	782,558
学会賞費（研究奨励賞および優秀発表賞）	110,000	110,000
会合費（交通費他）	300,000	0
事務局経費	150,000	150,650
事務局外部委託費	2,000,000	892,825
財）日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	0
国際交流委員会	100,000	61,254
研究委員会	300,000	117,762
広報・若手育成委員会	300,000	0
学会賞委員会	100,000	0
（小計）	900,000	179,016
学会ホームページ リニューアル	300,000	328,130
電子投稿システムの運用経費	350,000	66,000
電子投稿システムの機能追加	150,000	0
40周年記念事業準備費	500,000	0
予備費	200,000	0
次年度繰越金	9,943,853	12,466,276
合計	17,663,853	17,697,629

#### 4. 令和6年度(2024年度)分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願い申し上げます。2024年10月24日時点での2024年度会費の納入率は79.8%です。納入促進に、会員みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。また、前年度(2023年度)分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)ガリレオ・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般8,000円、学生5,000円、団体10,000円)

#### 5. 会員情報更新のお願い

学会ホームページから会員情報の更新を随時お願いいたします。学会ホームページでは、会員専用ページとして「会員名簿検索システム」を導入しています。会員相互の連絡や情報交換のためのシステムですので、所属先の情報については可能な範囲で公開させていただきますようお願いいたします。

また、学生としての所属がなくなった場合は、一般会員への変更をお願いいたします(こちらは学会ホームページの「マイページ」の変更と併せて学会事務局までご連絡ください。

#### 【入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先】

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2-401

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内

TEL 03-5981-9824 FAX 03-5981-9852 ※電話受付 平日11:00~16:00

E-mail : g050jscs-support@ml.gakkai.ne.jp

#### 【上記以外の学会運営に関する問い合わせ先】

〒448-8542

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学 竹川慎哉気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscsstaff@gmail.com

※2022年4月1日をもって、学会事務局のメールアドレスを変更いたしました。

#### 【学会ホームページ】

<https://jscs-info.jp/>

※2024年4月10日に学会ホームページのドメイン(URL)を移転しました。